

## 【ライフサポートファイルを作ろう会&茶話会】

10/11、11/10、12/10、1/11、2/10、3/10 参加者延べ39名

毎月10日に行っているライフサポートファイルを作ろう会&茶話会。新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置が発令されている期間は、来所でのご参加は受け付けず、オンラインでの茶話会を中心に行いました。3月の会では、2月に行った「まつど発達支援フェア」の講義部分の録画を視聴し、お互いの感想を話しました。フェア当日に参加したくても参加できなかった方が、視聴することができて、良かったと思います。今後もコロナ禍の様子をみながらですが、ライフサポートファイルを作ろう会&茶話会を、来所とオンラインで行っていきます。詳しくはHPをご覧ください。

## 今後の活動予定

### ☆就学・進路相談会 (義務教育編) 6月下旬 (進学編) 10月上旬

両日ともオンライン開催 10時~11時半頃まで

お申し込みの詳細は別紙、またはHPをご確認ください。

### ☆ライフサポートファイルを作ろう会&茶話会 (茶話会はオンラインでの参加可)

5月10日(火) 6月10日(金) 7月11日(月) (8月以降はHP参照)

LSF 作ろう会 10時~ 先着5名様・要予約 参加費 100円

茶話会 11時~ 子育てミニミニ講座動画を視聴して、感想など、みんなでおしゃべりしましょう

お申込みはEmailからどうぞ。

### ☆ペアレントサポートワークショップ

9月~11月 (全5回) 日程、詳細は、別紙、またはHPをご確認ください。



私たち NPO 法人子ども子育て・発達支援研究会は、障害や不登校、引きこもりなどで、地域生活に困難のある子ども・若者に対し、福祉、教育、療育の視点を持った支援を行うとともに、その健全な発達支援活動を地域住民や地域団体に普及させ、公益の増進に寄与することを目的として、活動しています！

発行者：NPO 法人子ども子育て・発達支援研究会 広報委員会

Add. …千葉県松戸市小金原 9-5-42 びーんず Labo

Email … kodomokosodate.matsudo@gmail.com

HP … <http://www.kodomokosodate-kenkyukai.org>



# Jelly Beans News

発行日 2022年4月28日

第8号



ジェリー・ビーンズはアメリカ生まれのポップなお菓子。箱を開けると、カラフルなお豆たちが飛び出します。ひとつひとつ違うから、キラキラ光ってきれいなんです。



## 代表挨拶

びーんず Labo 近くのバス通りには八重桜の並木があります。毎年ソメイヨシノが散るころに、いきなりパツと鮮やかな濃いピンクの花が現れる様に感じ、いつも驚いてしまいます。ソメイヨシノはニュースでも開花の知らせがあるので、つぼみから満開まで注意して見ているのに、八重桜の開花はなんて突然なんでしょう？あんなに華やかに咲く花なのに。きっとソメイヨシノに気を取られ、八重桜の枝には注目していないからなんだろうね。

子ども達の成長発達も、もしかしたら期待をして注目していないので変化を実感できないだけで、意外と期待していないところが大きく成長しているのかもしれない。そんなことを感じながら、コロナになって3度目の新年度が始まりました。

春は「卒業」からの「自立」の季節でもあります。実は「発達支援室びーんず」でも、進学タイミングなどで「療育施設や放課後デイが必要なくなったので」と、卒業していく子がいます。それはそれで素敵なことです。逆にこの春は高校を卒業し、成人（福祉の世界では18歳で児童から成人の制度に切り替えます。）として改めて福祉サービスの利用計画の契約をした人も居ました。福祉サービスは、児童の間は「療育（治療的教育）支援」、成人になると「自立支援」とも言います。

さて、では「自立」とは何でしょうか？実は先日 SNS 上でこんな言葉を見つけました。

「自立とは、依存の反対語では無い。依存のできるもの（依存先）が張り巡らされていること」

「身辺自立」「通学の自立」「生活の自立」「経済的な自立」... 子育てをしていると、ついついこれらの「自立」という言葉に追い立てられ、年齢を重ね、学年が進む度に焦るかもしれません。でも、全部が一人でできなくてもいい、困ったら頼れる（依存）先があれば良いのです。その依存先が両親などの家族だけではなく、家族以外（社会）に張り巡らされたとき、「自立」できるのではないかと思います。

卒業しても発達支援室びーんずは子どもと保護者の「依存先」になれば良いなと思います。はじめは親御さんの子育ての伴走の様に寄り添い、卒業していても何かあればまた相談に来てもらえたり、お子さんが成人した後は、「依存先の一つ」になり親御さんと、社会と一緒に支援していきたいと願います。

昨年はコロナにかこつけて会報だけで設立5周年をお知らせしましたが、その後年末に大きな看板を設置しました。びーんず Labo は道から少し奥に入っていて、普通の民家の様な建物なので、目印も無く初めて来た人が迷ってしまうことも多かったのですが、看板が無いことがずっと気になっていました。昨年は何人かの会員さまに寄付もいただき、それが追い風となり看板を建てることができました。ますます地域の中で、障害のある子どもとそのご家族の拠り所となれるように、みなさまと一緒に活動していきたいと思えます。

NPO 法人子ども子育て・発達支援研究会  
代表理事 富永 文子







### 【ペアレントサポートワークショップ】

9/14(火)、9/28(火)、10/11(火)、10/26(火)、11/9(火) 参加者7名

千葉県発達障害者支援センターCAS 東葛より講師の先生をお迎えし、全5回のワークショップを開催しました。今回は新型コロナウイルス感染対策の為、オンラインでの開催です。子どもが今できている「よい行動」をさらに増やし、新しい「よい行動」も引き出すためにできる工夫を参加者みんなで考え、各家庭で実践しました。

初回時の自己紹介では、自分の子どもについて「～ができない。」「こんなことで困っている」とマイナスな発言が目立ちました。でもワークショップの回を重ねるごとに、「こんなかかわり方をしたら、うまくいった!」「うちの子はこんなふうに褒めたら、とても喜んで、またよい行動が増えた。」など嬉しい報告をたくさん聞くことができました。講師の先生のわかりやすいアドバイスのおかげで、それぞれ具体的なかかわり方がわかり、これからの子育てのお役に立てたかと思えます。



↑来所できる人は、Laboで参加しました。

子育てで行き詰まっていた。今回参加して、子どもができないのには理由があって、どうサポートしてあげるか、サポート次第でできることが増えるということが、発見できました。参加できて本当に良かったです。

他のお母さんのお話を聞くことも、共感できることがたくさんあって、楽しかったです。



(保護者 A さん) (保護者 B さん)

今までは、「何をこの子にやってあげればいいのかだろう?」と自分一人でがんばっていました。子どもの気持ちを考えずに、押し付けることが多く、それで「なんでできないの?」と思っていました。今回参加したことで、「スモールステップでいいんだ」「できなかったら、もっと簡単な目標に変えればいい」と気付いて、目から鱗が落ちる思いでした。

子どもに対して自分が一生懸命になるほど、困ったところに目がいってしまい、子どものいいところを素直に褒められなかったこともありました。でも今回参加して、子どもの意思を確認しながら目標をたて、目標が達成できたり、よいところに気付いたりした時に、素直に褒められるように自分が変わって、笑う機会も増えました。

### 【第9回まつど発達支援フェア】

2月19日(土) 参加者 オンライン58名 サテライト会場19名

令和3年度のまつど発達支援フェアは、昨年度同様、オンラインで開催いたしました。昨年度と違って、自宅からだけでなく、ふれあい22にサテライト会場を用意し、足を運ばば視聴できるようにしました。

オープニングでは、毎年出演して下さる障害のあるアーティスト達による演奏とパフォーマンスを鑑賞しました。素晴らしい演奏に、来年は是非、生演奏、生パフォーマンスが見たいという声をいただきました。

基調講演では、～誰もが自分の人生の主人公になるために～「セクシャリティ、学んで慣れて伝えよう!」というテーマで、平木真由美先生(京都市立総合支援学校 医療福祉コーディネーター)にお話をいただきました。「セクシャリティ」について、生きる上で大事なことを、平木先生が明るくユーモアを交えながらお話して下さったことで、「日頃、周囲では、なかなか聞けないような話を聞くことができ、とても興味深かった」等、大変勉強になったという感想を多くいただきました。

パネルディスカッションでは、放課後デイサービスの職員、フリースクールの職員、平木先生で、具体的な事例をあげて、支援者や保護者の対応について、ご自身の意見をお話してもらいました。聞いていた方も、学びのある有意義な時間になったかと思えます。

新型コロナウイルスが猛威をふるう中での開催となりましたが、開催にご協力いただいた方々、参加して下さった方々、本当にありがとうございました。

貴重な機会を頂きありがとうございました。私の普段の児童指導員としての仕事により深みを持たせられるような非常に実りのあるお話を聴くことができました。

セクシュアリティ支援について、「同意・拒否」を学ぶことのできる「サイコロゲーム」は特に勉強になりました。

子どもと関わっていると、やってはいけないことに対して、「ダメ」と安易に注意してしまいたくなる瞬間があります。そこでいかに言葉を変えて肯定的に促しているかが、私達の仕事のメインテーマの一つだと改めて痛感いたしました。



(支援者 C さん)



サテライト会場でコンサートを視聴している様子 ←

←パネルディスカッションの様子

パネルディスカッションの助言者と→スタッフ



パネルディスカッションの助言者と→スタッフ

